

仙台スポーツリレートーク・レポート

主催 市民スポーツボランティア SV2004

私たちはスポーツボランティアとして幅広いスポーツをサポートしています。そのスポーツに関わるキーとなる方に、現在のスポーツ事情や将来への展望に関して話しを聞くことができたら、私たちの活動はもっと広がり豊かになると考え、ボランティアの栄養補給と夢の実現の場として企画したものが「仙台スポーツリレートーク」です。

第三回 「仙台・宮城のスポーツの今 ~ これからの可能性 種目の枠を越えて」

スピーカー 宮城県サッカー協会 理事 竹鼻 純 さん

日時 2010年9月30日(木) 20時~22時

会場 仙台市市民活動サポートセンター 研修室1

参加者 ボランティア関連 15名



8月に開催した第二回スポーツリレートーク、そこでは竹鼻さんにワールドカップをはじめサッカーのお話しをしていただきました。残念ながら時間が不足してしまったため、終了後もっと話しを聞きたいという声が多くあり、さらにサッカー以外のスポーツについてもお話ししたい、ということで今回改めて竹鼻さんをお願いしました。

.....

地方のローカル局の夕方のニュース番組の中にスポーツコーナーがあり、しかもそうしたコーナーを多くの局が持っているというのは実は全国的には珍しいことです。宮城テレビでは平成2年のインターハイの前に県内のスポーツを盛り上げるためにコーナーを設けました。当時は学校や企業スポーツが中心でしたからコーナーの誕生は現在とは比較にならないくらいアマチュアスポーツ界への貢献度は高かったと思います。現在はプロスポーツの取材が中心となりそうした分野がカバーしきれていないのは、スタッフ数の問題ですが大変残念なことです。

さて、ホットな話題ということで今日(2010年9月30日)のニュースで、ベガルタ仙台の関口選手が25人の日本代表に選出されました。チームとしては小村・山下に次いで3人目ですが生え抜きでは初めてということになります。選ばれた顔ぶれをみると戦術的にはワントップでやるように思いますが、関口選手はサイドアタッカーとして縦につっかけていく推進力を期待されているようです。彼は守備に関しても献身的で相手の両サイドバックを抑える役割もあるでしょう。また、スタミナと強い気持ちがあり先日の山形戦でもディフェンスで随分貢献してくれました。

一方野球ではブラウン監督の解雇が発表されました。結果からみればやむを得ないという声がある中で、そもそも球団が彼に期待したのは野村野球を変えるという意味が大きかったはずですし、戦い方についてはやっとならぬやりのやり方がわかり始めてきて今後期待し、選手との信頼関係の築き方など良い点もあったということを考えれば、彼を選んだ編成のミスということも点検する必要があると思います。後任ですが、個人的には桑田や古田だといいたいと思うのですが。

以前の野村監督のときにはキー局に野村監督のコメントを送るとというのが大きな仕事でした。そのことで全国区となっていました。今年は残念ながら成績不振も重なり地方区のチームという扱いでした。また、ブラウン監督がベースを投げ退場するというシーンが話題になりましたが、あれは職場放棄で子供達に悪い影響が心配される行為で、そういうこともわかっていてやったとすれば問題です。

監督以外では中村選手が解雇となり、岩隈投手もメジャーに移籍しそうです。代わりということでは早稲田の齋藤祐樹投手ではなく、中央大学の沢村投手や早稲田ならストッパーとして期待される大石投手をとりこぼしてほしいと思います。個人的な意見ですが齋藤投手はマー君のレベルにはいかないのではないのでしょうか。

次にプロバスケットボールの仙台 89ERS のシーズンがもうすぐです。このチームはもう少しでブレイクしそうです。もともと bj リーグはいわば独立リーグで、統合にむけてスタートした日本協会との話し合いには時間がかかるのではないのでしょうか。現状では女子は世界レベルに近いのですが、男子は高校・大学・実業団の指導者がバラバラで、その中で事実上はプロである企業チームへの配慮からなかなかプロ化が実現しなかったということが、bj リーグの誕生の背景にあります。その bj リーグの問題としては、日本人選手が、協会傘下ではないため、代表選手の選考対象外ということもあり、トップクラスの選手の獲得が難しい状況にあります。外国人選手はシーズンが終わると、よりレベルの高いリーグを目指して、まず移籍を考えがちで、中々定着しないことも課題です。さきほどの日本リーグ(JBL)との合体ですが、機運はできていますが、大会ルールの問題等もあって時間がかかると思います。

さてアマチュアスポーツということで宮城のスポーツを国体からみていきたいと思います。国体については廃止論もある中で、その成績は都道府県別の総合順位をはかる唯一の指標ともなっています。国体では長く開催県の総合1位が続いていましたが、開催時だけ、露骨にジブシー選手などを取り込んで1位となるようなやり方が批判されていました。そのため2001年のみやぎ国体では、大会後も宮城に住み、強化に役立つ人を中心にしました。平成8年以前の成績は40位代で議会でも問題になったりしましたが、宮城国体後は10位台で推移しており、都道府県別の人口に見合ったまは妥当な順位ともいえますが、欲を言えば一桁代の結果を出して欲しいところです。

将来に関してですが宮城のスポーツの状況はここ10年で大きく変わりました。今はトップレベルのスポーツを見ることができます。一方でスポーツの指導者が高齢化し、若い指導者の気質も家庭や仕事を中心にするなど大きく変わっています。その指導者の多くはボランティアですから、宮城のスポーツを何とかしようと思ったら、指導者の環境を何とかしなければ駄目です。つまり指導者の動機付けにつながる「スポーツ施設の改善充実」や「交通費をはじめとする待遇の改善」のほか、日本ではいいチームを作った人の評価はあがりますが、「いい選手を育てた人の評価が低い」ことなども改善する必要があります。

勝負の世界ですのでわかる部分もありますが、強豪校同士の指導者の仲が悪く互いに足を引っ張り合ったり、ライバルチームとセットで取材したいと申し込んだら「だったら取材は受けない」と断るような心の狭い人もいてスポーツの発展を阻害しています。現在神戸に所属している大久保選手が、国見高

校時代、先生の運転で、バスで全国を遠征していました。その彼が「真夜中に自分たちが寝ている間ずっと車を運転していた指導者の背中を思い出すと、頑張らなくてはと思った」と話していましたが、そうした熱い指導者が少なくなっているのです。また、宮城のスポーツを引っ張ってきた高校がスポーツから手を引きかけているのも気になります。少子化や資金不足もあってスポーツにお金がかけれない状況と聞いています。

最後に、個人的な見方ですが私はスポーツの基本は陸上競技だと思います。しかし、宮城はあらゆる年代で全国的にみてレベルが低い状況です。具体的な対策はわかりませんがこうした状況を変えることも大切になっています。

意見交換

若い世代には学校の先生の影響は大きく、その意味では小中学校に広く目配りができる先生を配置することが望ましい。

こどものタレント発掘事業が広がっているが子供の能力をみて育成する仕組みは必要

スポーツ強化の方法については成功事例を作ることがいいのでは

スポーツでの子供の育成には自治体が無関係ではいけない

ラグビーのワールドカップに向けては地元で応援するチームや、そこから代表選手がでることが盛り上げにつながる

サッカーのワールドカップでは周知のためのシンポジウムを徹底的に実施した

指導者育成という視点では現在トップレベルの選手たちのセカンドキャリアにも目を向ける必要がある

